

# 写真で振り返る 所沢市のあゆみ 1950~1960年代

## 所沢市の誕生

所沢市が市となる前、1943（昭和18）年に旧所沢町と小手指村、山口村、吾妻村、松井村、富岡村が合併して新たな所沢町となっていました。終戦後間もなく協議会が設立され、市制施行の話は進むか見えましたが、市街地と農村地帯の地域的格差がまだ大きかったため一時立ち消えになりました。しかし、行田市や秩父市が相次いで市制を施行すると、復興の最中にあった所沢でも、進駐軍工場の労働者の増加や織物業・製茶業の復興など様々な発展要因があったことから、市制施行に向けた機運が再燃し、1950（昭和25）年11月3日、県内で8番目に市制を施行することになったのです。

その後、1953（昭和28）年の町村合併促進法の施行を契機として、1955（昭和30）年4月に三ヶ島村と柳瀬村が所沢市と合併し、現在の市域になりました。

### 1950（昭和25年）

○11月3日所沢市制を施行

### 1955（昭和30年）

○三ヶ島村・柳瀬村と合併して、現在の市域となる

### 1958（昭和33年）

○新所沢団地の第一回分譲開始

### 1960（昭和35年）

○市制施行10周年

### 1961（昭和36年）

○所沢市議会が基地返還要求の決議をするとともに、市議会内に基地対策特別委員会を設置する

### 1964（昭和39年）

○市立図書館開館

○東京オリンピック開催に伴い、市内クレイ射撃場（柳瀬）でクレイ射撃競技が行われる

### 1966（昭和41年）

○アメリカ・イリノイ州ディケイター市と姉妹都市締結

### 1967（昭和42年）

○基地返還を求め、市・市議会・市民等による「基地全面返還運動市民大行進」が行われる

### 1968（昭和43年）

○埼玉国体が開かれ、所沢でクレイ射撃競技が行われる

### 1968（昭和43年）

○宮本町に旧市庁舎が完成し、12月より業務開始



所沢市街と所沢駅（昭和30年代初め頃）



日吉町商店街（昭和30年代）  
所沢商工会議所所蔵



銀座通りの七夕祭り（1954・昭和29年）  
所沢商工会議所所蔵



旧市庁舎完成（1968・昭和43年）

旧所沢町が飛行場の町として発展するのに伴い、周辺の村と合併して市域が広がっていったんだね。今も行政区分や地名には、昔の村の名前が残っているよ。



## わたしたちが見る おじいちゃん・ おばあちゃんのアルバム



所沢市は今から70年前、1950（昭和25）年に生まれたんだね。おじいちゃんの話では、その当時は戦後の混乱が収まって、やっと世の中が安定し始めたころだったそうだよ。今ではイメージしにくいけど、その頃の所沢は駅から少し離れると田んぼや畑が広がるのどかな農村地帯だったんだって。市になったことは嬉しいことで、市制が施行された日には、市内各地域から山車が集まってお祝いしたそう。とても賑やかな行事だったのが写真からも伝わってくるね。

おじいちゃんたちが住んでいる新所沢地区が造られたのは、この時代の少し後のことなんだって。大きな団地ができて、どんどん住民も多くなって、学校も増えていったんだ。この頃は、僕たちが住んでる並木地区の辺りは、今よりも大きく米軍基地が広がっていて、基地の返還を求めて市民運動もとても盛んに行われていたんだ。そのおかげもあって、今の基地の一部返還にも繋がっているんだね。

そして、この時代には1964（昭和39）年の東京オリンピックがあって、市内でもクレイ射撃の競技が行われたそうだよ。おじいちゃんとおばあちゃんもすごくわくわくしたのを覚えているんだって。

## 1964年東京オリンピック（昭和39年）

南永井に東洋一の規模のクレイ射撃場が整備され、競技会場となりました。会期中には海外から多くの人が訪れ、市内はオリンピックムードに。射撃場は1967（昭和42）年の埼玉国体の会場にもなりました。



所沢会場のタワー



クレイ射撃の会場

## 近郊住宅都市への発展

所沢がベッドタウンとして発展する契機となったのが、新所沢団地（緑町）の造成です。日本住宅公団は東京近郊で住宅を確保するため、北所沢駅（現在の新所沢駅）の周辺で大規模な宅地開発を開始しました。団地や分譲地に1万人の入居を見込んだため、道路・小学校・公園・下水道・都市ガスが整備され、県内では都市基盤や生活環境の整備が先行したニュータウンの先駆けとなりました。



市制施行記念祭礼（1950・昭和25年） 肥田野憲一氏所蔵



西武新宿線・新所沢駅（1964・昭和39年）



新所沢団地（1964・昭和39年）

## 基地の返還を求めて

所沢飛行場跡地は、第二次大戦終結後に米軍に接収され、その広大な敷地は在日米軍の施設として使用されました。その後、返還を目指して市民1万人署名運動や基地全面返還運動市民大行進などの運動が展開されました。



市民約4,000人による基地全面返還運動市民大行進

鉄道の利便性に魅かれて、多くの市民が転入してきたんだ。

